

# 歌声に感謝の気持を込めて

## —「合唱コンクール」をメインに置いた、3年生を送る会—

桜川中学校

### 1. はじめに

どこの学校でもそうであろうが、本校でも3月の卒業式間近になると、いわゆる「3年生を送る会」というものが、もたれていた。内容は、各文化系のクラブの発表が中心で、演劇や、合唱などが、その主たるものであった。当時は、文化祭的なものが本校では行なわれていなかったので、文化系のクラブにとっては、この「送る会」が唯一の発表の場であった訳である。

ところが、私が初めて、この「送る会」に接した時のショックは、正に衝撃的であった。何故なら、送られるべき3年生達は、全くステージには無関心で、お互いに好き勝手な言動をして、誰のための送る会なのか、全くわからないような状態であったからである。舞台では演劇部がいっしょうけんめい演じているのだが、私語の余りの多さに、セリフが全く聴きとれない。従って、つまらないでの、ますます私語が多くなる、という悪循環。合唱も、リコーダーの演奏も、演奏者のみが精一杯演奏しているという有様である。全体が静かになったのは、この年に初めてできたプラスバンド部が、音量にものを言わせて演奏した時だけ、というお粗末さであった。

勿論、前年からの学校荒廃を受けて、生徒の状態が余り良くない、ということも原因の1つであったとは思う。しかし、その年度の秋には、合唱コンクールが行なわれ、いわゆるツッパリ達も大きな声で歌い、かつ真剣に聴いていて、大成功を収めた事を考えると、必ずしも、生徒のマナーの悪さだけに原因を求める事はできない、と考えた。

この時期の3年生達には、「受験が終った」という解放感がある反面、受験という目標が無くなってしまい、何をしてよいのか、訳がわからなくなってしまっているところもある。そこで、どこの学校も、都立高の受験から卒業までを、どのように「おもり」するかに、頭を痛める訳である。「送る会」も、そのような、「おもり」的な発想の中で置かれている感じが強く、これでは、3年生達が、無責任に臨むのも、仕方ない面もあるのではないか、と思うと同

時に、何とかしなくてはいけない、という気持に、強くかられたのである。

### 2. 対策とその結果

#### (1) 3年生を送る会についての考え方

前項で述べたように、「送る会」が失敗した最大の原因是、送られる側の3年生に、自分が主役であり共に参加しているのだ、という自覚がなかったからだ、と考えられた。生徒会行事である以上、一人一人が、その場に自から参加するのが当然である。傍観的な立場をとる生徒が多ければ多い程、行事は盛り上らないで終ってしまう。送られる側だから、といってお客様然とさせてしまうのでは、自分達の行事だ、という気持になれないのも無理からぬことである。何と言っても、送る側と送られる側との気持ちが一つになる事が大切なのである。そして、そのような連帯感を持つことのできる行事は何か、と考えた時に、浮び上って来たのが合唱コンクールであった。



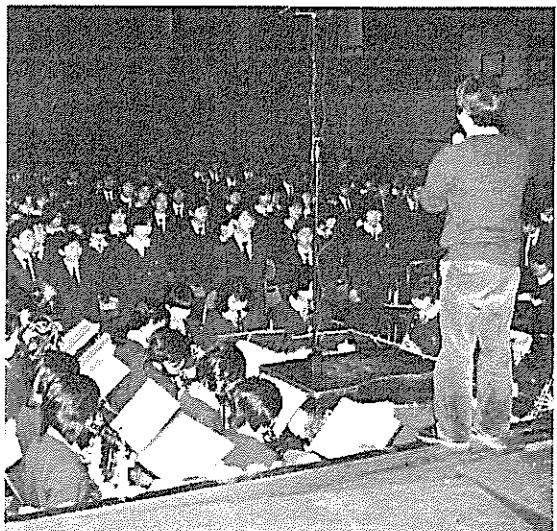
3年生を送る気持を込めて真剣に歌う

#### (2) 合唱コンクールについて

合唱コンクールの意義については、今更、ここで色々述べるまでもないのだが、3年生を送る会として合唱コンクールを持つことの意味は、他の時期に

聞く場合とは又、別の意味をも、持つと思うので、そのあたりのことを述べておきたい。

先ず第1に、この時期は、年度の終りとして、各クラスのまとまりをつけたい時期であるが、そのためにも、合唱は、非常に有効である、ということである。次に、3年生にとっては、中学校時代最後の行事であり、自ら参加することによって、当然、一人一人が主役になるから、無責任な参加が少くなるということ。又、勝敗がかかっているので、他のクラスへの関心も強く、より積極的に鑑賞できる、ということ。そして、プログラムに全員合唱を入れることによって、1年生から3年生までが、一つになれる、という連帯感を持つことができることであって、3年生を送り出す行事としては、大変にふさわしい内容を持つことができると思われるのである。又更には、コンクールのための練習時間として、入試終了以後のあり余る時間を使うこともでき、しかも、練習はほとんどが生徒が自主的に行うので、教師としても、残務整理の時間がとれる、というおまけまでつく。と、色々考えた上で、翌年は、「送る会」として合唱コンクールを実施したが、ほぼ予想に近い成果を上げる事ができ、以後、この時期に、「3年生を送る会」として合唱コンクールは定着し、内容も徐々に充実してきている。



全校が心をこめて一つになって歌う全員合唱

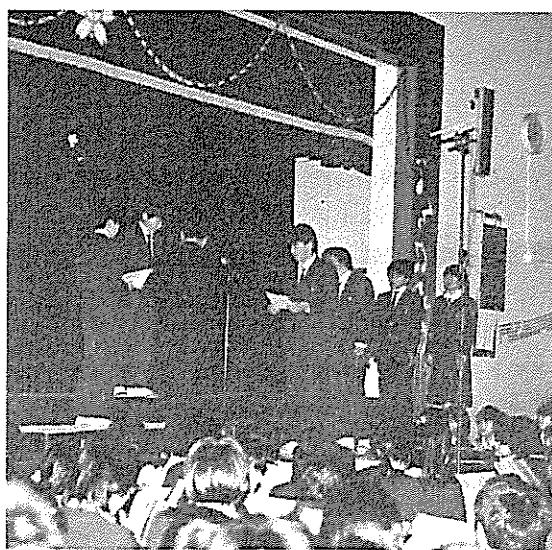
選曲委員会で、楽譜や、レコード、テープを見聴しながら自分のクラスにふさわしい曲を選ぶ。年が明けると3年生の授業は、5～6時間しか行えないのでも、どうしても、この時期がギリギリである。選曲委員は、曲を選ぶだけではすぐに仕事がなくなってしまうので、引き続いて、「送る会実行委員」として仕事をしてもらうことになる。

(2) 各係は以下のようである。

- (ア) 選曲委員兼、送る会実行委員
- (イ) 指揮者、伴奏者、審査員
- (ウ) ポスター係 — 各クラスの自由曲のイメージポスターを描き、ポスターについても審査され、優秀なものは表彰される。
- (エ) あいさつ係 — 3年生は在校生へ、1、2年生は3年生へそれぞれ各クラスから送る言葉や残すことばを、歌う前に述べる。

(3) 運営については実行委員会と生徒会総務が中心となり、在校生全員で、装飾類の制作と、3年生全員に渡す、メッセージカードやペーパーフラワーの作成に取り組む。練習時間も昼休みや放課後に音楽室や体育館を割り当て、朝は各教室で自主的に行なわせている。昨年度の送る会でも、メッセージカードの贈呈などのセレモニーの後で、学年合唱として3年生が涙を流しながら歌って残してくれた合唱は在校生や教師にも涙を流させる程感動的であった。

今や本校の伝統行事として定着したこの「合唱コンクール」のさらなる充実を願ってペンを置きたい。



感激の表彰でのひとこま

### 3. 現在の実施状況

(1) まず、12月下旬に、各クラスで選曲委員を選んでもらう。選曲委員は各クラスの意向を受けて、